

第5学年 図画工作科学習指導案

は組 男子18名 女子20名 計38名
指導者 徳留 健成

1 題材 夢の鏡

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、自分の将来の姿を楽しく想像し、木版画の特徴を生かしながら、自分の思いを木版画に表す題材である。

この期の子どもたちは、これまでの造形活動で培ってきた経験や資質・能力を生かしながら、新たな表現に対して意欲的に取り組む姿が見られる。また、物事を客観的にとらえることができるようになってきており、友達と積極的に交流を図りながら、自分の表現をよりよいものにしていくとする姿が見られる。

そこで、自分の将来の姿を木版画に表していくことは、「将来こうなりたい」という思いや自分の将来を想像した姿と、実際の表現とを何度も確かめながら粘り強く取り組むことで、自分の思いを表現していく喜びを味わうことができる。また、自分の将来の姿が表現できるように、人物の動きや画面の配置、白と黒のバランスを考えながら表現していくことで、つくりだす力を伸ばしていくことができる。そして、見るポイントを基に木版画を鑑賞し、友達と感じたことや思いを交流していくことで、互いの表現のよさや課題、その課題の解決方法に気づき、感じ取る力を伸ばしていくことができる。さらに、自分の夢を木版画の特性を生かし表現していくことで、画面の構成、彫刻刀の彫りの効果、ばれんやローラーの適切な使い方をよく考えながら表現し、造形への知識・理解、技能を高めていくことができる。

このように、自分の将来の姿を想像しながら木版画に表していく題材は、自分なりの夢の世界を楽しく想像しながら、光を用いた切り絵を製作していく5年生の題材「夢を映して」へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う木版画は、パスや絵の具を用いて表現していく一般的な絵とは異なる特性をもつ。具体的には、彫っていくことで白と黒の違いが表現されること、版と作品は左右が逆になること、細かく表現していくことが困難であること、彫刻刀の種類によって彫りの効果が異なることなどが挙げられる。これらの特性を理解し表現に生かしていくことで、自分の思いやイメージに合った表現をしていくことができると考える。また、将来の自分の姿を映し出す鏡という設定は、一人一人の子どもがこれまでに何度も思い描いてきたであろう、自分の将来の夢を想起させたり、今現在努力している自分の姿と重ねたりすることができ、これまでの生活経験と関連させながら友達と学ぶ合うことで、子どもたちは意欲的に学習に取り組むことができると考える。

そこで、自分の将来の姿を木版画に表すためには、まず自分の将来の姿を具体的に想像しながら動きや画面の配置を考えたり、表したいことがよく分かるように白と黒のバランスを考えたりすることができるようにする必要がある。次に、自分の将来の姿を想像しながら木版画に表していく際に、見るポイントを基に鑑賞したり、友達と感じたことを交流したりしていくことを通して、互いのよさや課題、解決方法をとらえ、自分の表現へと生かしていくことができるようにする必要がある。さらに、自分の想像した将来の姿がよく表れるように、「単色で簡素化した線で表現する」「版と作品では左右が逆になる」などの特性や彫刻刀の種類によって彫りの効果が異なることに気付かせて表現したり、ばれんやローラーなどの版画で扱う用具を適切に使うことができるようにしたりする必要がある。

このような学習を通して、子どもたちは、自分の将来の姿を具体的にイメージし、創造的に表現・鑑賞していく能力や態度を培いながら、自分の表したいことを木版画に表現していくことで、つくりだす喜びを味わい、表現へのこだわりをはぐくむことができると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、版画について（※1）は、4年生題材「私のカレンダー」で紙版画と木版画を組み合わせて表現する学習を経験してきており、ほとんどの子どもたちは版画に表すことが好きである。しかし、版画の特性に抵抗を持っているために「好きではない」と答えた子どもも2名いた。版画のよさを実感できるような場を設定する必要がある。

作品を鑑賞することについて（※2）も、ほとんどの子どもたちは「好き」と答えている。しかし、右記の理由から「好きではない」と答えている子どももいるので、積極的に友達の作品を鑑賞したり、友達の作品を鑑賞することのよさを実感したりすることができるようにしていく必要がある。

自分の将来の夢について（※3）は、1名が絵に表すことができなかつたので、言葉を形にできるような個に応じた手立てを行う必要がある。

見るポイント（※4）や作品のよさや課題（※5）については、これまでの学習経験を生かし、多くの子どもたちが自分なりの見るポイントやその作品のよさ、課題を見付けることができた。一方で、一つしか見付けられなかつたり、一つも見付けられなかつたりした子どももいたので、見るポイントを基に表現・鑑賞することのよさを実感したり、作品のよさや課題に気付くことが自分の表現に活かされる経験をしたりできるような場が必要であると考えます。

版画の特性について（※6）は、把握していない子どもも多いので、導入段階で確認させていく必要があると考えます。

(4) 指導上の留意点

ア 版画の表現に意欲的に取り組むことができるように、導入段階において参考作品の鑑賞を通して、版画に表すことのよさに気付かせていきたい。また、友達の作品を鑑賞することのよさを実感できるように、鑑賞前と鑑賞後の自分のイメージや作品を比較させ、自分の伸びが実感できるようにしていきたい。

イ 自分の将来の姿を具体的にイメージして木版画に表現することができるように、各鑑賞活動において互いの作品を鑑賞し合ったり、鑑賞して感じたことを交流し合ったりできる場を設定し、表現場面においても積極的に鑑賞したり、友達と交流したりしていくことを認めていきたい。また、これまでの学びや生活経験が結び付いていることを意識させたり、既習内容や共通体験を具体的に想起させたりしながら、豊かにイメージできるようにしていきたい。

ウ 自分や友達の表現のよさや課題に気付き、自分の表現に活かせるようにするために、全体で鑑賞する際に事前に見るポイントを基に鑑賞することを確認させたり、イメージしたことがどの見るポイントと結び付いているのか考えさせたりしていく。具体的には、どんな色や形から自分なりのイメージにつながっているのか、あるいは、イメージしたことが、どの見るポイントを基に鑑賞することで見出されたのか、具体的に尋ねたり、板書に示したりしていきたい。

エ 自分のイメージしたことを確かに表現できるように、版画の特性や版画で扱う用具の適切な使い方を確実に身に付けられるようにする。そのために、版画の特性や用具の適切な使い方について全体で話し合ったことをしっかりとまとめたり、実際に試しづくりをしながら習熟を図ったりして、思いに合わせて表現できるようにしていきたい。

実態調査 5年は組38名（4月中旬実施）

- 1 版画に表すことについて ※1
好き（36名） 好きではない（2名）
（好きではない理由）
 - ・ 普通の絵のようにのびのびと表現できないから
 - ・ 反対にかかないといけなくて難しいから
- 2 作品を鑑賞することについて ※2
好き（36名） 好きではない（2名）
（好きではない理由）
 - ・ 友達の作品に興味がないから
 - ・ 友達の作品に感想をもつことが難しいから
- 3 自分の将来の夢について ※3
（言葉で具体的に書かせたり、絵に表現させたりした。）
 - ・ 言葉で書くことができた（38名）
 - ・ 絵に表すことができた（37名）
- 4 見るポイントについて ※4
（4年生題材「私のカレンダー」の参考作品を鑑賞させて、自分なりの見るポイントがどれだけ見付けられるか尋ねた。）
見るポイントを複数見付けた（30名）
見るポイントの一つ見付けた（7名）
見るポイントの一つも見付けられなかつた（1名）
- 5 作品のよさや課題について ※5
（4年生題材「私のカレンダー」の参考作品を鑑賞させて、その作品のよさや課題がどれだけ見付けられるか尋ねた。）
よさや課題を複数見付けた（21名）
よさや課題の一つ見付けた（15名）
よさや課題の一つも見付けられなかつた（2名）
- 6 版画の特性について（複数回答） ※6
 - ・ 黒と白で表現される（23名）
 - ・ 版と作品の左右が逆になる（13名）
 - ・ 何度も刷ることができる（8名）
 - ・ その他（3名）

3 目 標

- (1) 将来への思いや自分の将来を想像したイメージと、実際の表現とを何度も確かめながら進んで木版画に表すことができる。
- (2) ① 自分の将来の姿を具体的に想像し、表したいことがよく表れるように、人物の動きや画面全体の構成、白と黒のバランスなどを考えながら、木版画に表すことができる。
 - 見るポイントを基に作品を鑑賞する中で、木版画の特性を生かした互いの表現のよさや課題、その課題の解決方法に気付き、自分の表現へと生かしていくことができる。
- (3) 木版画の特性を生かし、動き、画面の構成、彫刻刀の彫りの効果などを考えながら、ばれんやローラーなどの用具を適切に使って表現することができる。

4 指導計画 (全7時間)

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
動機付け 発想	1 自分の夢を木版画に表すことについて、話し合う。 【鑑賞活動①】木版画の特性を理解 【見るポイント】 ・動き・大きさ ・中心とまわり ・白と黒のバランス 【イメージ】 世界で活躍するサッカー選手の自分を表現したいな。	2 (本時) 第2時	○ 表現への意欲を喚起するために、参考作品を鑑賞させて、自分の将来の姿について話し合わせ、表現へのイメージが広げられるようにする。 ○ 木版画に対する関心が高まるようにするために、教師は作品への思いと木版画の特性を関連付けながら、木版画のよさに気付けるようにする。
	2 題材のめあてを話し合う。 自分の将来の姿を木版画に表そう。		○ 自分の将来の姿がさらに具体的にイメージできるように、自分の思いと表現途中のアイデアスケッチを紹介する場を設定し、そのよさや課題をお互いに交流できるようにする。また、自分の伸びに気付かせ、鑑賞のよさを実感させる。
表現	3 版を製作する。 (1) アイデアスケッチをかく。 【鑑賞活動②】自分のイメージの具体化 自分はどんな動きにしようかな。周りの様子はどのように表現しようかな。 版と作品は左右が逆になるから、背番号の向きは気を付けて表すようにしよう。	3	○ 自分の将来の姿がさらに具体的にイメージできるように、自分の思いと表現途中のアイデアスケッチを紹介する場を設定し、そのよさや課題をお互いに交流できるようにする。また、自分の伸びに気付かせ、鑑賞のよさを実感させる。 ○ 自分のイメージに合った表現ができるように、それぞれの彫刻刀がどのような彫り跡になるのか気付けるような、試し彫りの場を確保する。 ○ 彫刻刀を安全に扱えるように、彫刻刀の使い方の資料を掲示して、いつでもふり返られるようにする。
	(2) 下絵を版木にかく。 (3) 版木を彫る。 【鑑賞活動③】彫りの効果への気付き ドリブルをしているときのスピード感は、どの彫刻刀を使って表現すればいいかな。 彫るところと彫らないところ(白と黒)のバランスはどのぐらいがいいかな。		○ 彫刻刀を安全に扱えるように、彫刻刀の使い方の資料を掲示して、いつでもふり返られるようにする。
	(4) 鏡の枠を糸のこぎりで切り抜く。 【鑑賞活動④】糸のこぎりの技能の向上 鏡の枠の形も、今の形よりもっとかっこよくするには、どうすればいいかな。 曲線や折れ曲がった下がきの線も、線に沿って正確に切れるといいな。		○ 初めて扱う糸のこぎりを自信をもって使うことができるように、試しに板を切断する場を設定して、扱いに慣れるようにする。
鑑賞 評価	4 刷る。 自分のイメージどおりに表現できていないな。友達のアドバイスを参考にしてみよう。	2	○ イメージしたことがよく表れるように、試し刷りをさせて、思うように表現できていないところを修正彫りさせる。 ○ 表現できた喜びが味わえるように、できた作品を基に、自分の思いやイメージを見るポイントと結び付けながら話し合わせ、互いのよさが認め合えるようにする。
	5 互いの作品を鑑賞し合う。 【鑑賞活動⑤】成就感・満足感を実感 自分の将来の姿を木版画に表すことができたよ。友達の商品も思いがよく伝わってくるよ。		

5 本 時 (2 / 7)

(1) 目 標

- ア 友達の作品を鑑賞し感じたことを話し合い、自分の将来の姿を具体的にイメージしながら、進んでアイデアスケッチに取り組むことができる。
- イ 互いの作品を鑑賞し合い、感じたことを交流することを通して、将来の自分の姿の動きや周りの様子、画面全体の構成など、自分なりのイメージを具体的にしていくことができる。
- ウ 自分や友達のアイデアスケッチを見るポイントを基に鑑賞しながら、それぞれの表現のよさや課題に気付き、自分の新たな表現へと生かすことができる。
- エ 「単色で簡素化した線で表現する」「版と作品では左右が逆になる」などの木版画の特性を踏まえながら、アイデアスケッチに表すことができる。

(2) 本時の展開に当たって

導入段階に、途中のアイデアスケッチを鑑賞し合う活動を設定する。自分の思いやイメージと、アイデアスケッチを鑑賞して気付いたことや感じたことを照らし合わせ、気付いた課題やその解決方法を交流できるようにする。その際、アイデアスケッチとこれまでの経験とを結び付けながら言語活動が展開できるように、思考の流れを板書に示したり、ワークシートにまとめたりできるようにする。さらに、鑑賞前に活動の目的を実感させたり、鑑賞後に自分の伸びを実感させたりして、鑑賞活動自体を価値付け、鑑賞活動後も表現と鑑賞を一体的に行われるようにしていきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間 (分)	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 本時のめあてを話し合う。 自分や友達のアイデアスケッチをかんしょうしよう。	5	○ めあてへと焦点化できるように、課題を感じている子どもの考えをとり上げ、鑑賞の必要性に気付かせる。
発想	2 鑑賞活動を行う。 鑑賞前	15	○ 活動への意欲を高めることができるように、何のために友達とアイデアスケッチを鑑賞したり、話し合ったりするのか発問し、鑑賞活動の目的に気付かせて、課題意識を高められるようにする。
表現	(1) 活動の目的を理解する。 【見るポイント】 ・動き・大きさ ・中心と周り ・白と黒のバランス 【イメージ】 世界で活躍しているサッカー選手の感じにしたいな。		○ 自分や友達のアイデアスケッチのよさや課題に気付けるように、見るポイントを基にグループで鑑賞させ、気付いたことや感じたことを伝え合うようにする。
鑑賞	鑑賞中 (2) 鑑賞したことを基に、話し合う。 【見るポイント】・動き・大きさ ・中心と周り・白と黒のバランス 【イメージ】 活躍しているサッカー選手にしたいな。 【イメージ】 周りに観客を表現してみたらどう。		○ 自ら進んで友達と伝え合うことができるように、黒板に伝え合う際のモデルになる資料を掲示して、いつでも確かめられるようにする。
	鑑賞後 (3) 活動をふり返る。 【見るポイント】 ・動き・大きさ ・中心と周り・白と黒のバランス 【イメージ】 多くの観客を表現すると、活躍しているようだな。		○ 活動の価値が実感できるように、鑑賞したことを基に、アイデアスケッチを変えたいと思った子どもの考えを取り上げ、自分の高まりに気付かせる。
	3 アイデアスケッチをかく。 周りの様子もかいたけど、これでいいかな。友達に見せて、アドバイスをもらおう。	20	○ 主体的に作品にかかわることができるように、積極的に鑑賞し、学び合う子どもの姿を価値付け、全体に広げていく。
鑑賞	4 本時をふり返る。 【鑑賞のよさ】 ・鑑賞することで、自分の課題やその解決方法に気付くことができた。友達と話し合っていると、自分のイメージも広がってきた。 【工夫したところ】 ・周りの様子を工夫して表現することで、活躍している感じになってきた。	5	○ 今後も意欲的に鑑賞活動に取り組めるように、アイデアスケッチの変化を提示して、本時の自分の高まりや鑑賞活動の価値を実感できるようにする。
評価			